

食料品製造業における労働災害発生状況

厚木労働基準監督署

平成27年12月末現在の労働災害発生状況は、全産業で799件発生しており、前年同期と比較してマイナス21件（-2.6%）減少しています。

製造業においてもマイナス32件（-14.8%）と減少傾向にありますが、食料品製造業にあつては、製造業全体で減少している中でわずかに増加しており、当署管内における労働災害が減少しない一因となっています。

	平成27年12月末	平成26年12月末
全 産 業	799	820
製 造 業	185	217
食 料 品 製 造 業	64	62

前年同期と比較すると減少傾向が見られますが、過去の労働災害発生状況は、全産業では、増減を繰り返しており、減少傾向が見られず、食料品製造業にあつては、近年、増加傾向にあります。

製造業に対する食料品製造業の発生割合も増加傾向にあり、平成27年12月末日の時点では、製造業全体の34.5パーセントと3分の1以上を占める状況にあります。

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
全 産 業	835	802	873	861	913	799
製 造 業	205	179	197	197	237	185
食料品製造業	65	51	46	51	68	64
食料品比率	31.7%	28.4%	23.3%	25.8%	28.6%	34.5%

注 平成27年は、12月末までに報告された件数

食料品比率は、製造業のうち、食料品製造業の発生割合

食料品製造業における労働災害は、裏面に掲げたようにいくつかの特徴が見られますので、労働災害防止の取組については、これらを考慮して効果的に実施できるようお願いします。（過去3年間の労働災害発生状況から分析）

1 事故の型は、転倒が最も多く、次いで挟まれ・巻き込まれが多発！

転倒と挟まれ・巻き込まれで55パーセントを占めていますのでこれが防止できれば、食料品製造業の労働災害が半数以下になります。

転倒防止には、整理整頓も重要ですが労働者の健康づくりが効果的！

挟まれ・巻き込まれは、清掃や点検、調整などの非定常作業時に多く発生しています。

2 起因物は、食料品加工機械やコンベアなどの動力運搬機が多発！

食品加工機械による労働災害は、手指の切断などの重篤なものも発生しています。

労働安全衛生規則も改正され、規制も強化されており、回転体や刃に接触することによる危険を防止しなければなりません。

3 年代別では、60歳以上が最も多く、次いで50歳代！

50歳代以上の労働者が48パーセントを占めています。

一般に加齢とともに身体能力の衰えがあり、柔軟性が失われていきます。

気持ちは、若いままかもしれないませんが、作業開始前のストレッチや体操など柔軟性を高める取組を始めませんか？

4 負傷者は、63パーセントが女性労働者！

就労割合にもよりますが、女性労働者に多く労働災害が発生しています。

作業時間や作業姿勢など女性に配慮されていますか？

5 経験期間は、3年から10年までが最も多く、次いで1年未満！

作業に慣れ、いろいろ任される頃、労働災害が発生しています。

採用間もない労働者や採用後3年程度の経験の労働者に安全教育を実施しましょう。

作業方法や手順のほか、危険箇所の確認なども有効です。

6 労働災害発生月については、9月、1月に多発！

年末年始や夏期休暇などの労働者の長期休暇から復帰した月に多く発生しています。

安全大会の開催や安全教育の実施などにより、安全意識を高めましょう。

7 発生時間帯は、16時が最も多く、次いで11時に発生！

就業時間終了間際や休憩時間前に労働災害が発生しています。

この時間帯に職場巡視を行い、作業方法等を確認し、注意喚起に努めましょう。